

淀は、古代から中世を通じて西国から京都への物流の最重要拠点。豊臣秀吉の巨椋池改造と伏見城建設により物流の最重要拠点の座は伏見に明け渡すが、江戸時代には引き続き物流の一翼を担う。また、新たに作られた淀藩の淀城と城下町は、宇治川・桂川・木津川の三川に囲まれた水上に浮かぶ城として知られ、東海道 57 次の宿場としても賑わう。

明治以降の淀は水害対策として、河川の付け替えが連続。木津川と宇治川の位置が大きく移動し、水運とは縁のない土地へと変貌した。また巨椋池が干拓され往時の姿とは様変わりする。

今回のわくわく倶楽部の淀散策では、在りし日の淀の歴史を学びながら、ブラタモリ風に明治以降に激変した地形の痕跡を、絵図やかつての河川位置図を見ながら歩くことにより体感しました。

図1 現在の地図 A～M の順番で散策



図2 現在の地図に河川の付け替え前の地図を重ねた。A～M は図1 と対応。

A～B 間のはかつての宇治川にかかっていた淀小橋

K～L 間のはかつての木津川にかかっていた淀大橋



A～B 間の高低差(かつての宇治川の痕跡)



J地点 かつての堀底にある白龍龍王の社



K地点付近 孫橋から望む河津桜と水路(かつての堀跡)



K 地点から L 地点を望む 旧淀大橋の跡(旧木津川の高低差)



N 地点 現宇治川の堤防から

旧木津川堤防上の美豆の町並み(赤線)と旧木津川(青線)との高低差



写真ではなかなか高低差が感じ取れないが、参加者からは、なるほど歩けば感じるとの声が多く寄せられた3時間の楽しい散策でした。